

やさしくて、とくべつで、 なつかしい木旺舎

木更津の人たちにとって馴染み深いこのお店は、
なんだかあたたかくてほっとする憩いの場。
一度訪れば、あの味が、あの風景が恋しくなるはず



木更津 9

定番から風変わりなメニューまで！ 多彩な木旺舎の味。

木旺舎のメニューは2種類に分かれています。木旺舎のロゴマークが黒いものがお食事とドリンク、赤いものがクレープとガレットが中心ののっています。木製の表紙があたたかくて可愛い。多種多様なラインナップにページを捲る手が止まりません。

看板メニュー・フレンチトーストは木旺舎独自のスタイル。「味違うビジュアルが木旺舎らしい。今も続く人気のクレープもレシピは木旺舎のオリジナル。「作れるものは自分たちで作るのが木旺舎のこだわりです」と高橋さん。ドリンクやお食事に使うシロップ、黒蜜、バスタ用のバジルソースはすべてお店で作っています。

和風のデザートに欠かせないあんこも、お店で炊くところから用意しているそう。「どこかで仕入れているんですかと聞かれることが多いのですが、ケーキもすべて自家製です」古くから続くメニューだけでなく、新しいお食事、ドリンク作りにも積極的に挑戦。フルーツティーやティーラテはお客さんのニーズに合わせて追加されたメニューの一部。「お客さんの好きそうなもので、かつ作れそうなものはほとんど試しています」とのこと。そんな木旺舎のこだわり、愛されていくでしょう。



はこれからもこの街で、長く引き継がれ、愛されていくでしょう。

木更津駅東口に建ち並ぶビルの中で白い木目の壁面と真っ赤な手すりが一際目立つのは、昭和51年創業の木旺舎。かすかに聴こえるパロック音楽に誘われて階段を登り、扉を開けると木の温かさを感じ、店内の風景が広がります。手書きの文字からやさしい雰囲気を感じるメニューの黒板をはじめ、様々なものが手作りだという店長の高橋さん。高橋さんの両親が始めた木旺舎は2人の「好き」が詰まったお店だそうです。店内で目を引くアンティーク雑貨や穏やかで優美なパロック音楽はお2人の趣味。木旺舎ならではの世界観は夫婦のこだわりで作られています。

なつかしい雰囲気に包まれる木旺舎は、幅広い世代に愛されています。日常的に訪れる人から、帰省で久しぶりに来る人まで。高橋さんがお店の改装を考えたときは、お客さんから「変えちゃうの？」と寂しがられたそうです。「自分が思っている以上に思い入れを持ってくださっているんだな」と思いました。

長く愛される理由のひとつは、木旺舎の随所に見られるこだわり。好んでいてくれる人を思いついてきたメニューやお店の雰囲気は一朝一夕では作れません。たくさんの方がお店を訪れて「なつかしい」と感じるのには木旺舎が築いてきたこだわりがあるからこそ、感じられるものなのでしょう。

ほっとひと息
ティータイムコンビ

フレンチトースト 750円

×

ホットカフェ・オ・レ 600円

じゅわっと滲み出るバターとクリームの組み合わせが絶妙なフレンチトーストとまるやかなカフェオレと一緒に。カフェオレは横かしのカフェオレボウルで楽しめます

ごほうび
ランチコンビ

ピザトースト 900円

×

アイスカフェ・オ・レ 550円

厚切りのイギリスパン、ソース、チーズの組み合わせがたまらないピザトーストとほかでは珍しいクリーム付きのアイスカフェオレ。ぷ厚いパンとたっぷりのクリームは幸せのしるし

隠れた人気者コンビ

サラダスパゲティ 900円

×

キャンベルグレープアイスティー 550円

和風の味付けでボリュームな「サラダスパ」とアイスティーとグレープジュースの異色の組み合わせは昔からの常連さんにも愛されています



木旺舎本店
木旺舎ならではの空間と料理で、ゆったりとした時間を過ごせます。家族と、友達と、もちろんおひとりさまでも。心がほっとすること間違いなし。

☎0438-22-2002 木更津市大和1-3-14 ⑩10:00~19:00 ランチタイム11:00~15:00 ⑪火 木更津駅東口から徒歩2分 【MAP P02 C-2】

やさしくて、とくべつで、なつかしい木旺舎

個性派ホテルあります。 週末は木更津でホカンス

ホカンスとは「ホテル」と「パカンス」を組み合わせた造語。木更津には滞在を目的にしたくなる、ホカンスにぴったりな個性派ホテルがたくさんあります。今週末は日帰りじゃなく、木更津にステイしてみませんか？



35分でできる「龍宮城」で 日常をリセットしよう

木更津には、日常をリセットするのにぴったりな「龍宮城」があります。東京からわずか35分でたどり着く現代の竜宮城、それが「龍宮城スパホテル三日月」です。5万6千坪もの広大な敷地内には、「龍宮亭」と「富士見亭」というふたつの宿泊施設を中心に、複数の温泉施設、3つのプール、土産店やゲームセンターが入った「お祭りランド」、バギーやカヤックなどのアクティビティ、さらには動物園まであるという驚きのラインナップが揃っています。丸1日たっぷり遊んでも、時間が足りないかもしれません。

宿泊施設である富士見亭は、オーシャンビューの客室にテラスと半露天風呂がついている、なんともゴージャスな造り。天気の良い日は東京湾越しに、富士山を望むことができます。週末には花火が打ち上がるのですが、なんとこの打ち上げ花火、自分で上げる体験ができるとのこと。記念日などに体験する人が多いそうです。

入浴施設も充実しており、富士見亭には最上階に天空の露天風呂や、時価総額6億7千万円もかけた純プラチナ風呂とK18黄金風呂。さらに、隣接する龍宮亭にある関東最大級の温泉スパ施設も楽しめます。利用者の多くがチェックインスタートの11時に来館して、思いっきりプールや温浴スパを満喫するそう。お部屋には15時から入れるので、

少し疲れたら絶景のテラスでまったりし、再びアクティビティや動物園を楽しんで…と、遊びの無限ループが楽しめます。 「お祭りランド」内には、地元・木更津市の情報発信ステーションとして、「木更津ギャラリ」も併設。オーガニックシティとしての取り組みや盤州干潟など、木更津の魅力を見ることができる場所にもなっています。



ふるさと納税返礼品
龍宮城スパホテル三日月
☎0438-41-8111 📍木更津市北浜町1
【MAP P03 A-3】

極上オーベルジュで 心も体もどろける 「口福」ステイ

おいしいお鮎屋さんでお腹いっぱい食べた後、このままお風呂に入って眠れたら幸せなのに…と思ったことはありませんか？ その願い、木更津にある鮎オーベルジュならかないます！

2022年に鳥居崎海浜公園内にできた「鳥居崎倶楽部HOTEL&SEAFOODS」は、全国的にも珍しい「鮎屋に泊まる」をコンセプトにした温泉旅館です。わずか6つのお部屋すべてがスイートルームという贅沢な客室は、もちろん全室オーシャンビュー。澄んだ日には、東京湾の上に富士山が浮かびます。大浴場がない分、お部屋には「チヨコレート湯」と呼ばれる本格的な温泉が完備。美肌効果があるという温泉に、体も心も甘く溶けてしまいそうです。



鳥居崎倶楽部 HOTEL&SEAFOODS
☎0438-97-6300 📍木更津市富士見
3-5-11 【MAP P02 A-2】

併設された鮎屋も、ただものではありません。名店で30年も腕を磨いた職人さんが、木更津魚市場でその日の朝に仕入れた魚を、目の前で美しい江戸前鮎に仕立ててくれます。絶品の魚料理にお酒をたっぷりいただいても、帰らなやという心配がないのがよいですね。

自然とアートをたっぷり浴びる「非日常」体験
KURKKU FIELDSは、農業・食・アートが融合したユニークな複合施設。広大な敷地に、たっぷりの自然と有機野菜の農場、牛や山羊が飼われていて、さらに草間彌生や増田セバスチャンなどのアート作品があつて…という唯一無二の空間です。



”あのころ”を思い出す週末は童心にかえろう。
子供の頃は、なぜ1年があんなに長かったのだろう…「ETOWA KISARAZU」はそんな「あのころ」を思い出させてくれるグランピング施設です。最大の個性派ポイントは、廃校になった旧富岡小学校をリノベーションしたというロケーション。小学生時代に憧れた「学校に泊まる」が体験できてしまいます。校舎内にはカフェやブレイクム・マーケットなどがあり、施設も充実しています。一部プランでは駄菓子やジュースなどが食べ飲み放題！子供時代の夢がかなう一方、クラブトビールなどのお



ふるさと納税返礼品
ETOWA KISARAZU
☎0438-53-7086 📍木更津市下部1886
【MAP P03 B-2】



ふるさと納税返礼品
KURKKU FIELDS
☎0438-53-8776 📍木更津市矢那2503
【MAP P03 B-2】



大人っぽい空間。窓からは、農場風景とアートが融合した絶景が眺められます。
滞在中には、ファームツアーや図書館の利用など、さまざまな体験が用意されています。都会の日常に疲れたら、自然の中で自分と向き合う特別な時間を過ごしてみたいかがでしょうか。



週末は木更津でホカンス



旧金鈴塚遺物保存館。設計者は吉田秀雄、吉田桂二、峯岸泰夫、小宮山雅夫の4名。彼らは合理主義的な設計を模索した東京大学生産研究所の池辺陽研究室の出身。このうち峯岸泰夫は千葉県立中央図書館の設計者である大高正人らとともに5人の会という当時新進気鋭グループのメンバーでもある



太田山に佇む、モダニズム建築遺産に会いに

木更津駅から足を伸ばした太田山の中腹に、歴史を繋ぐモダニズムな建物が佇んでいます



CG制作/今川洋尚

太田山の中腹にひっそり佇むモダンな小屋の正体は？

木更津駅東口を山側に降りると仰ぎ見えるのは、この街のシンボルの太田山。その麓の駐車場から頂上をめざして坂道を登ると、中腹にひっそりと佇むように「KINRYU」と細工されたおしゃやかな門扉が現れます。一見見落としてしまいそうなほどのさりげなさですが、その脇に小屋風の建物が建てられています。それが旧金鈴塚遺物保存館です。

ここは木更津市長須賀にある金鈴塚古墳という前方後円墳から出土した、その名の通り「金の鈴」を初めとした貴重な出土品の数々を保存するために建てられたもの。1956(昭和35)年に開館し、千葉県内の新設の展示室としては最古だったそうです。2008(平成20)年にその役割を終えましたが、かつては多くの見学者でにぎわったと言います。

美しさは時代を超える それを物語る建造物

中庭に延びる通路の先に建つシンプルなコンクリートの白い建物を見ると、まず目に入るのがドアの黒い鉄枠。建築好きならここで「グロビウスのファグス靴工場?」「前川國男の神奈川県立図書館の扉?」などと、僕のようなモダニズム建築マニアの血が騒ぐ存在感です。屋根の造形はモダニズムの合理性を超えて古代日本へのオマージュすら感じさせ、きつと往時のその姿は木更津の街を見下ろす場所に建つ未来への希望を映すものだったと思われまふ。

そして特筆すべきが建築の保存状態。太田山の麓に残るトンネルは戦争遺構であり、ここ太田山は戦時下において軍の施設として使われていたそう。そして戦後、この場所を「平和利用」することを願ってこの建物が建てられたと言われています。今は木々に覆われた中に本来の役目を終えてひっそりと佇みますが、竣工当時は東京湾を望めるすっきりとした庭だったようです。この建物が、この場所ので長きにわたり木更津の街を見下ろしていたのだと思うと、感慨が込み上げます。

そしてその場所は今でも、先人の思いをしっかりと引き継ぎ、本当に美しいものは時代を超えるのだということを証明するかのよう、今でもその場所に静かに鎮座するように存在しているのです。

※通常時は立ち入りできません。敷地の外からご覧ください

